

2014年10月30日

東京大学大学院農学生命科学研究科  
食の安全研究センター

御中

消費者意識調査におけるデータミスについてのお詫び

株式会社 日本リサーチセンター



謹啓

この度は、東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センターより受託致しました「消費者意識調査（2014年2月実施）」に関しまして、弊社の納品データに下記の通りミスがありましたことをご報告申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。

東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター、関係者各位 並びに 既に公表済のデータをご活用の皆様には、多大なご迷惑をお掛けしましたことを深く陳謝いたします。

今回のミスにより、下記の質問項目において本来の正しい調査結果とは逆傾向の調査結果として報告されることになってしまいました。

今後は、二度とこのようなミスを起こさぬため、確認業務を徹底し、再発防止の徹底に努めてまいります。

記

#### ■ 調査の方法

弊社リサーチモニターに対して、Web リサーチを実施。最終有効サンプルは 9,678 s。

#### ■ データのミス発生箇所

- ・Q1 食の安全に関する意識(13項目)
- ・Q2 食の安全に関する行動(14項目)
- ・Q3 福島県と東北・関東の農業や食品に関する意識(18項目)
- ・Q7 食品の安全管理についての意識(6項目)

計 51 項目

#### ■ データのミス内容

上記の 51 項目の質問において、Web 調査プログラムの設定ミスにより、回答者が Web 画面上で、例えば選択肢「6.強くそう思う」を回答した場合、アンケートシステムのサーバー上では、データ値が「1(選択肢“1.全くそう思わない”に該当)」と記録されることになった。

そのため、調査結果が正しくデータが記録された場合とは逆傾向の調査結果として報告されることになった。

#### ■ミスへの対応状況

10月2日 貴センターからのご指摘によって確認されたデータミスがあった箇所について訂正作業を実施し、貴センターに訂正データをご納品。

#### ■再発防止策

本件は調査の信頼性を根底から揺るがす深刻な事故ととらえ、再発防止策として以下の対策を実施する。

- ・Web調査プログラム作成段階で、プログラム作成者は「調査票指定通りの値」と「プログラミングの設定の値」とが合致しているかの確認を徹底する。
- ・調査開始前に全ての質問に対して、テスト回答を実施し、テスト回答内容と記録されたデータの値に齟齬がないかを確認する。
- ・実査後のデータチェック工程で、値を特別に指定している箇所については、納品前に通常のチェック(指定のデータ範囲にデータが落ちているか等)だけではなく、質問項目とその回答の集計結果の妥当性確認も含め、入念なチェックを行う。

この度はご迷惑をお掛けしましたことを幾重にもお詫び申し上げます。

敬具